

我が世の幸と耳うてば

天のさゝやき静なるか那

暮 秋

東 くめ子

人まつ虫の音

いつしかたえはて

招きし尾花の

袖さへ破れぬ

暮れ行く秋をば

とゞめんすべさへ

しら露おさそふ

庭の面さびしや

賤の女

敏 子

いつこも同し

文明の

光くまなき

御世なれば

都に遠く

へだつとも

まなぶに難き

事やある

何かなげかん

山青く

水清らけき

海原の

岩にくだくる

波のはな

ちりては結ふ

月かけの

わかぬながめを

朝夕に

友とたのみて

むらさきの

心の限り

學ばいや

心のかぎり

學ばいや

歌の曲

つねを

うつり行く世の

ならはせか

素樸のこころ

かのづから

清きおもひに

慰籍の

それもしほしの

夢のまや

かすかに響く

わかとき

天使のこと葉に

目さむれば

つれなき縁りの

いく年か

過ぎて果敢なし

人の夢